



みやこ 京カレッジについて

「京(みやこ)カレッジ」とは、京都市と大学コンソーシアム京都が主催する生涯学習事業です。大学の講義が受講できるほか、「市民教養講座」といった大学の生涯学習講座などを提供しています。詳しくは「京カレッジ生募集ガイド」または京カレッジホームページをご覧ください。



2023年度 京カレッジ
京都力養成コース 京都学講座

『京都と“えんため”』

コロナ発生4年目を迎え、世界各地で戦乱の収まらない昨今、今年こそは平穏な日常に戻れると多くの人は願います。今年のテーマは先のみえない現在、閉塞感からの脱却をめざして、思い切って本講座でこれまでに取り上げられることの少なかった京都のエンターテインメントを主題としました。世界平和を祈りながら、笑って懐かしがって楽しんでいただければ幸いです。古典から現代までの芸能や音楽などの京都に因んだ方々を招き、「えんため」の切り口から京都の歴史と文化を読み解き学んでいきます。

2023年度 京カレッジ 京都力養成コース 京都学講座 『京都と“えんため”』

●受講料

10,000円(基本講座10回)

- ※開講記念講座は別途応募が必要です。応募が定員を超過した場合は抽選で受講生を決定します。
- ※実地講座は別途参加費が必要です。参加をご希望の場合は、基本講座と同時に申し込みください。申込が定員を超過した場合は抽選で受講生を決定します。
- ※大学コンソーシアム京都加盟校の正規学生(ただし大学院・通信教育課程生等を除く)および放送大学京都学習センター全科履修生は基本講座の受講料を無料とします。学生証のコピーを出願の際にご提出ください。

●定員

「午前コース」「午後コース」とともに各200名

- ※どちらも同じ講座内容です。どちらかのコースを選んで出願してください。各コースとも出願が定員を超過した場合は抽選で受講生を決定します。出願後にコースを変更することはできません。予めご了承ください。

●出願方法

「京カレッジ募集ガイド」をご確認いただき、WEBにてご出願ください。

- ※WEBでの出願は、講座名等を画面上から選択するだけの簡単な仕様です。ぜひご利用ください。
- ※WEBのご利用が難しい場合は、郵送・持参での出願も可能です。

募集ガイドの入手または請求方法

■募集ガイド請求フォームより資料請求

スマートフォンのカメラ等で
こちらを読み取りお申し込みください。



■3月初旬より下記の配架先でも入手できます。

キャンパスプラザ京都、京都市役所、区役所、支所、京都市の図書館等

■直接お問合せ

郵便番号・住所・氏名(フリガナ)・電話番号を明記の上、ご請求ください。

メール miyakare@consortium.or.jp
FAX 075-353-9121

※ご提供いただいた個人情報は「京カレッジ」に関する運営のみに使用いたします。

出願受付期間

- WEB 3/ 3(金)~3/16(木) 23時59分まで
- 郵 送 3/ 3(金)~3/16(木) 必着
- 持 参 3/15(水)・3/16(木) 10時00分~16時00分
キャンパスプラザ京都1階で受付

【注記】 受講可否の連絡は4月上旬までに郵送いたします。ご入金いただいた受講料・参加費は返金いたしません。予めご了承ください。

大学コンソーシアム京都加盟校の正規学生は
基本講座の1回毎の受講が可能です

無料

1回毎の受講をする場合は、希望する講座(開講記念講座・実地講座以外)の日時に直接会場へお越しいただき、受付で学生証を提示してください(会場の定員を満たした場合は、受講をお断りさせていただくことがあります)。

※「加盟校正規学生」とは大学コンソーシアム京都加盟校の正規学生(ただし大学院・通信教育課程生等を除く)および放送大学京都学習センター全科履修生です。

●お問合せ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

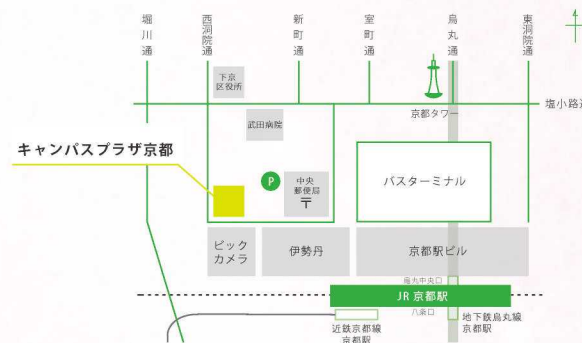
みやこ 京カレッジ担当
お問合せ受付時間 9:00~17:00(日・月曜除く)

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内
TEL. 075-353-9140 FAX. 075-353-9121

E-Mail : miyakare@consortium.or.jp

https://www.consortium.or.jp/

京カレッジ 検索



京都市営地下鉄、JR・近鉄「京都駅」から徒歩7分程度。
キャンパスプラザ京都には市バス・地下鉄等公共交通機関をご利用ください。

基本講座 10回
定員 各200名

2023 期間 5/13(土)~12/16(土)

2023 時間
【午前コース】10:00~11:30(受付開始 9:30)
【午後コース】12:30~14:00(受付開始12:00)
※各コースとも講座内容は同じです。

会場 キャンパスプラザ京都 (4階 第2講義室)
龍谷大学響都ホール校友会館 第2回 5/27開講のみ

開講記念講座

3/4(土)

あの素晴らしいエンタメの時代 -1960年代後半のめくるめく京都-

瞳 みのる氏 (ザ・タイガース) 音楽家、著作家
小林 一彦氏 (京都産業大学 文化学部 教授)

※開講記念講座は別途応募が必要です。

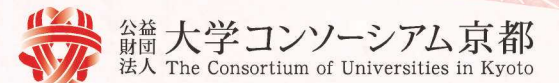
- 第1回 5/13(土) 京の今日の狂言 -歴史と特色、楽しみ方- 森西 真弓氏 (大阪樟蔭女子大学 名誉教授)
- 第2回 5/27(土) 京都でフォークと出会った青春 杉田 二郎氏 (フォーク歌手、シンガーソングライター) 川島 智生氏 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授) 会場: 龍谷大学響都ホール校友会館
- 第3回 6/3(土) 日本アニメ史入門 -日本アニメ人気の理由を歴史から探る- 津堅 信之氏 (アニメーション研究者、日本大学 藝術学部 講師)
- 第4回 6/17(土) 義満と世阿弥 -日本独自の演劇「能」のルーツを探る- 井沢 元彦氏 (作家、歴史家) 川島 智生氏 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)
- 第5回 7/8(土) 落語に親しむ -落語の雑学あれこれ- 桂 よね吉氏 (落語家)
- 第6回 8/5(土) 京神輿学事始め -神輿は誰が、どのように昇くのか- 中西 仁氏 (立命館大学 産業社会学部 教授)
- 第7回 9/9(土) 京都における三味線音楽の楽しみ -三味線音楽の今と昔、その魅力- 重森 三果氏 (邦楽演奏家、新内節研進派家元、新内協会理事)
- 第8回 10/7(土) フォークルとパッチギの京都 松山 猛氏 (作詞家、ライター、編集者) 川島 智生氏 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)
- 第9回 10/21(土) 都をどりの歴史と現在 -都をどりの構成・作詞者として- 植木 朝子氏 (同志社大学 学長、同志社大学 文学部 教授)
- 第10回 12/16(土) 18世紀の京都画壇 -若冲、蕪村、応挙、芦雪- 岡田 秀之氏 (福田美術館 学芸課長)

実地講座1 7/29(土) 大江能楽堂能楽体験鑑賞講座 -明治の香り高き能楽堂で- 大江 美智子氏 (七世 大江又三郎 夫人) ディエゴ パレッキア氏 (京都産業大学 文化学部 准教授)

実地講座2 12/2(土) 花街のしきたりと空間 -祇園甲部歌舞練場とお茶屋- 杉浦 京子氏 (株式会社一力亭 代表取締役社長、祇園新地甲部組合 副取締) 川島 智生氏 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)

※実地講座は別途参加費が必要です。参加をご希望の場合は、基本講座と同時に申し込みください。

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、講座の延期や中止、内容の変更等が生じる場合がございます。最新情報は、大学コンソーシアム京都ホームページの「重要なお知らせ」等に掲載いたしますので、ご確認ください。



「京都と“えんため”」開講記念講座 あの素晴らしいエンタメの時代 -1960年代後半のめくるめく京都-


学問芸術と文化の都、京都には、王朝女流文学、鎌倉新仏教、ノーベル賞など人材輩出の輝かしい時代がありました。ザ・タイガース、ザ・フォーク・クルセダーズ、ジローズらを輩出した1960年代後半もその一つ。「めくるめく」熱狂の時代を、ザ・タイガースのリーダー、ピーこと瞳みのるさんと振り返ります。瞳さんは慶應義塾大学大学院博士課程から慶應義塾高校の教諭へと転身、長らく学究と教育に邁進した異色の存在でもあります。聞き手はかつて「塾高」で同僚だった京都産業大学 文化学部 小林 一彦教授がつとめます。

日時／2023年3月4日(土)
13:30~15:00(開場13:00)

参加費 無料 事前 応募


会場：キャンパスプラザ京都(4階 第2講義室) 定員：200名 ※応募多数の場合は抽選

【講師】 瞳みのる氏 ((ザ・タイガース)音楽家、著作家)



京都市出身。1967年、ザ・タイガースのドラマーとしてデビュー。グループサウンドの代表的バンドとして絶大な人気を誇る。1971年に解散後、一年間の猛勉強を経て慶應義塾大学に合格。中国文学の研究のために、大学院に進学し、さらに北京大学にも留学。大学院終了後は慶應義塾高校で33年間教鞭を執る。2011年から音楽活動を再開。ザ・タイガース復活コンサートに参加。また2014年に自らのバンド「二十世紀バンド」を結成して毎年ライブツアーを行っており、海外で北京、台北でもライブを開催した。他にコンサート、お芝居、講演と活動している。


小林 一彦氏 (京都産業大学 文化学部 教授)



専門は日本古典文学。和歌文学会常任委員、日本文学風土学会常任理事、全国大学国語国文学会委員、中世文学会委員など歴任。著書に100分de名著ブックス「鴨長明 方丈記」(NHK出版)、日本歌人選「鴨長明と寂蓮」(笠間書院)、「恋歌」(さくら舎)など。大学コンソーシアム京都 京都学企画検討委員。

■応募方法 WEBにてご応募ください。

スマートフォンのカメラ等でこちらを読み取りご応募ください。



もしくは下記URLから必要事項を入力の上、ご応募ください。
<https://tinyurl.com/kyotogaku0304>

■開講記念講座応募締切

WEB応募：2023年2月20日(月) 23:59

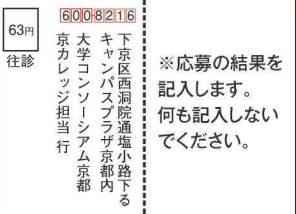
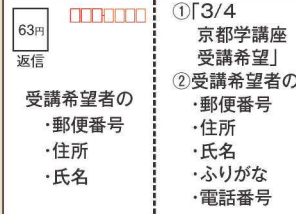
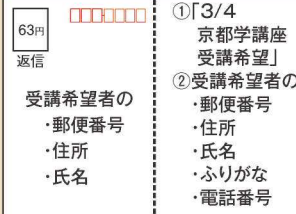
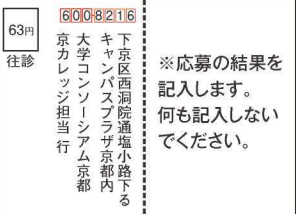
往復はがき：2023年2月20日(月) 必着

▶締切りを過ぎてのご応募は無効となります。

▶応募の結果は2023年2月24日(金)にメール(WEB応募の方)もしくは郵送(往復はがき応募の方)にて通知いたします。

▼WEBでのご応募が難しい場合

往復はがきに下図のとおり明記の上、ご応募ください。

往診(表面)	返信(裏面)	返信(表面)	往診(裏面)
 <p>63円 往診 京カレッジ コンソーシアム 京都 行</p>	 <p>63円 返信 ※応募の結果を記入します。何も記入しないでください。</p>	 <p>63円 返信 受講希望者の ・郵便番号 ・住所 ・氏名</p>	 <p>①「3/4 京都学講座 受講希望」 ②受講希望者の ・郵便番号 ・住所 ・氏名 ・ふりがな ・電話番号</p>

記載不備の場合や往復はがき以外での応募、また、1名1通でないものや料金不足の場合は受付できません。予めご了承ください。ご提供いただいた個人情報には京カレッジに関する諸連絡のみに使用するもので、その他の目的では使用いたしません。

『京都と“えんため”』

基本講座10回 ※午前・午後ともに同じ内容です。
【午前コース】10:00~11:30 【午後コース】12:30~14:00
※講座の内容は都合により一部変更することがあります。※実地講座は別途参加申込と参加費が必要です。

第1回 5/13(土)

京の今日の狂言 -歴史と特色、楽しみ方-

森西 真弓氏 (大阪樟蔭女子大学 名誉教授)

古典芸能の中でも650年以上の歴史がある狂言。京都では大蔵流狂言方の茂山千五郎家と茂山忠三郎家の二家が長年にわたってその技芸を伝承してきました。講義では特に明治維新期の困難をどのように乗り越えて今日の繁栄を迎えたかを振り返り、具体的な演目を紹介して、その楽しみ方をご案内します。



第2回 5/27(土) ※この回のみ会場が異なります。ご注意ください。

京都でフォークと出会った青春

杉田 二郎氏 (フォーク歌手、シンガーソングライター)
川島 智生氏 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)

会場 龍谷大学響都ホール 校友会館にて実施

半世紀前のわが国音楽界を疾走したフォークグループ、ジローズを覚えておられる人も多いのではないのでしょうか。北山修さんが作詞し、杉田二郎さんが作曲した「戦争を知らない子供たち」は大ヒットし、この歌は戦後の日本社会のマイルストーンのひとつとなります。京都で生まれ育った杉田さんは青春時代に京都フォークに出会い、ジローズを結成し、シューベルトツに加入し、歌い続けてきました。その歴史的な意義を京都の場所で当事者の杉田さんとともに検証します。



第3回 6/3(土)

日本アニメ史入門 -日本アニメ人気の理由を歴史から探る-

津堅 信之氏 (アニメーション研究者、日本大学 芸術学部 講師)

日本を代表する大衆文化となったアニメ。その人気は国内にとどまらず海外でも幅広い人気を得ています。歴史的には、日本のアニメは戦前からディズニーを手本にしてきました。しかし1963年放送開始の「鉄腕アトム」以後、テレビアニメを中心にして膨大な作品が生み出され、海外とは異なるさまざまなジャンルや技法が発達してきました。その歴史的流れを振り返りながら、日本アニメの人気の理由を講じます。



第4回 6/17(土)

義満と世阿弥 -日本独自の演劇「能」のルーツを探る-

井沢 元彦氏 (作家、歴史家)
川島 智生氏 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)

「能」が世阿弥によって始められたことは誰でも知っていますが、その最大のパトロンが室町3代将軍で金閣寺を建立した足利義満であることはあまり知られていません。また「能」という演劇自体がいかにユニークなものかも日本人はあまり気づいていません。このあたり日本の演劇史あるいは日本人固有の信仰も踏まえて立体的にお話したいと思います。



第5回 7/8(土)

落語に親しむ -落語の雑学あれこれ-

桂 よね吉氏 (落語家)

落語の発祥は約400年前の京都と言われています。そこから大阪、江戸へと広がっていきました。米朝一門の噺家・桂よね吉が、意外と知らない落語の歴史や、人間国宝・桂米朝宅での内弟子修行中のあれこれをお話します。また上方落語の特徴のひとつである「鳴り物」が噺の中でどのように効果的に使われているのか、生の三味線・太鼓の実演を交えて解説。最後は、実際に高座を組んで、落語をお楽しみいただきます!



第6回 8/5(土)

京神輿学事始め -神輿は誰が、どのように昇るのか-

中西 仁氏 (立命館大学 産業社会学部 教授)

京都には神輿の出る祭礼がたくさんありますが、観光の対象ではないためこれまであまり注目されてきませんでした。神輿渡御は祭礼の中心的行事であり、祭礼を理解するためには、神輿についての知識は欠かせないと思います。本講義では、神輿の出る祭礼を概観したうえで、神輿を昇る人々の集団の歴史、京都独特の神輿の昇き方について触れ、「京神輿学」への入門とさせていただきます。



第7回 9/9(土)

京都における三味線音楽の楽しみ -三味線音楽の今と昔、その魅力-

重森 三果氏 (邦楽演奏家、新内節研進派家元、新内協会理事)

京都では様々な種類の伝統的な三味線音楽を今日でも聞くことができます。京都に伝わる三味線音楽の各種目の歴史や特色に関して、浄瑠璃とうたの別や、劇場や花街の座敷など異なる演奏の場にふれながら、三味線の構造や種目による音色の違いについても実演を交えながら解説します。また多年に渡り演奏や指導で参加してきた京都で制作されている映画やテレビ作品のなかの三味線音楽についてもエピソードとともに振り返ります。



第8回 10/7(土)

フォークルとパッチギの京都

松山 猛氏 (作詞家、ライター、編集者)
川島 智生氏 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)

1960年代京都ではフォークブームが生まれ、ザ・フォーク・クルセダーズが「帰って来たヨッパライ」をヒットさせました。加藤和彦さんと北山修さんを中心に結成されたフォークルには松山猛さんが作詞も含めて深く関わりました。加藤さんと親しかった松山さんはポエジーな詞を得意としましたが、一方で社会派でもあり、南北に切り裂かれた朝鮮半島の悲劇を歌った「イムジン河」を持ち込みました。その想いは映画「パッチギ」の誕生に繋がっていきます。当事者から半世紀前の歴史を学ぶこととします。



第9回 10/21(土)

都をどりの歴史と現在 -都をどりの構成・作詞者として-

植木 朝子氏 (同志社大学 学長、同志社大学 文学部 教授)

都をどりは、明治5年に始まった祇園甲部の芸妓・舞妓たちによる春の踊りです。私は2014年から、その都をどりの構成・作詞を担当しています。本講座では、都をどりの歴史をたどった上で、現在、どのような過程を経て都をどりの舞台が作り上げられているのかをご紹介します。特に、構成上の決まり事や工夫、歌詞を書く際に心がけていることなど、作り手の視点からお話したいと思います。



第10回 12/16(土)

18世紀の京都画壇 -若冲、蕪村、応挙、芦雪-

岡田 秀之氏 (福田美術館 学芸課長)

18世紀の京都では、伊藤若冲、与謝蕪村、円山応挙、長沢芦雪など現在でもよく知られた画家が活躍していました。彼らはお互いに切磋琢磨しながら、独自の画風を確立し、多くの優れた作品を残しました。本講座では上記の4人の画家に注目し、それぞれの絵の魅力を紹介いたします。



実地講座1 7/29(土) 10:00~12:00

定員 100名

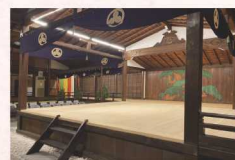
大江能楽堂能楽体験鑑賞講座

-明治の香り高き能楽堂で-

大江 美智子氏 (七世 大江又三郎 夫人)

ディエゴ ペレッキア氏 (京都産業大学 文化学部 准教授)

本講座は100年以上の歴史を持つ大江能楽堂で行います。室町時代に大成された「能」は今日まで途切れることなく伝わってきた舞台芸術です。古典文学を題材にした演目には神、武士、優雅な女性、鬼などが登場します。その物語は遠い過去の出来事でありながら、時空を超えた普遍的な意味を持ち、国内外に評価されています。本講座では解説と実演を通じて能の魅力を紹介いたします。



実地講座2 12/2(土) 午前コース / 10:00~11:30 午後コース / 12:30~14:00

定員 各50名

花街のしきたりと空間

-祇園甲部歌舞練場とお茶屋-

杉浦 京子氏 (株式会社一力亭 代表取締役社長、祇園新地甲部組合 副取締)

川島 智生氏 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)

芸妓さんたちで賑わう花街は京文化の魅力のひとつであり、伝統的な町並みが残り、歴史が体感できる空間となる。五花街はいずれもお茶屋・料理屋・置屋などの一群とその中心に歌舞練場が備わる構成をとる。今回は建物耐震工事が終わった祇園甲部歌舞練場で祇園甲部を代表する一力亭の女将、杉浦京子さんから花街のしきたりと実像を学びます。また建物見学を実施し、建築史の観点から川島智生が建物の意味を話します。

